

J A グループ宮城 災害復興ニュース (総 合 版)

第 1 0 1 号

【平成 30 年 1 月 5 日 (金) 発行】
発行：J A グループ宮城災害復興本部
編集：J A 宮城中央会
〒980-0011 仙台市青葉区
上杉 1 丁目 2 番 16 号 JA ビル宮城 6F
電話番号：022-264-8207
FAX 番号：022-216-4466

《目次》

1. I Y C 支援隊が被災地の農業法人などを視察
2. 低コスト・省力化を提案。「担い手営農支援フェスタ 2017 i n 宮城」
3. 原発事故農畜産物損害賠償で東電に約 1, 100 万円を請求

1. I Y C 支援隊が被災地の農業法人など視察

国際協同組合同年記念協同組合
全国協議会 (I Y C 記念全国協議
会) が設立した I Y C 支援隊が
10 月 20・21 日、気仙沼市や南三
陸町など、東日本大震災の被災地
を訪れ、震災後に発足した農業法
人などを視察しました。

訪れたのは、J A 全中や生活ク
ラブ連合会、日本労働者協同組合
連合会などの職員約 30 人。一行
は復興までの足取りや今後の課
題などを聞き、農家などと交流を
深めました。

南三陸町では、震災後に復旧し
た園芸施設で小松菜を周年栽培

する、南三陸町あぐり第一復興組合を訪問。星達哉組合長から、全国から支援を受け、営農再開に至った経緯を聞き、地域での雇用創出などについて意見交換しました。

震災前は輪菊を栽培していた星組合長が、新たに小松菜を選んだのは「年間を通して収穫できるので、震災で仕事を失った人たちの雇用を確保できること、それによって町を元気にしたいと思ったからです」と語りました。

現在、ハウス 2 畝、露地 6 畝で栽培。J A 南三陸を通じて出荷し、中でも、みやぎ生協が重要な取引先になっています。

気仙沼市では、大型ハウスでトマトを栽培する農業生産法人サンフレッシュ小泉農園を訪問。施設の概要や今後の課題などを聞きました。

一行は翌 21 日は、J A グループと生協が協同運営する松島町の A & C O O P 松島店や、J A みやぎ亘理管内のやまもとファームみらい野などを視察しました。



南三陸町あぐり第一復興組合を視察する支援隊の一行

2. 低コスト・省力化を提案。「担い手営農支援フェスタ 2017 in 宮城」

JAグループ宮城は11月16、17日の2日間、「担い手営農支援フェスタ2017 in 宮城」を仙台市の夢メッセ宮城で開きました。最新鋭のトラクターやコンバイン、田植え機などのほか、生産者の低コスト・省力化を実現する最新鋭のテクノロジーが一堂に集まりました。

農機メーカーなど約30社がブースを出展。溝切機など小型農機を展示するブースも多く、来場者は実際に農機を手に取り、感触を確かめていました。

米穀情報コーナーでは、平成30年から本格的に栽培が始まる「だて正夢」や、多収穫米、業務用米などを紹介しました。

2日間で約1,700人が来場し、成約金額は目標を大幅に上回る約11億6,000万円になりました。

JA全農みやぎ運営委員会の高橋正会長は「生産性向上のための省力技術の普及や、低コスト農機、資材の普及拡大に向けた具体的な提案活動を、今後も強化していきたい」と話しました。



最新鋭の大型農機に見入る来場者

3. 原発事故農畜産物損害賠償で東電に約1,100万円を請求

JAグループ東京電力原発事故農畜産物損害賠償対策宮城県協議会は12月28日、東電への第76次請求として1,096万円を請求しました。内訳は、原木シイタケの植菌断念等に伴う損害が832万円、牧草の利用自粛等に係る損害が244万円など。

平成29年11月30日現在の請求総額は約333億7,200万円、受領総額は315億1,500円で、請求対比94.4%となっています。

以上